

令和3年度 第4回香芝市男女共同参画推進委員会 議事要旨

1. 開催日時：令和4年2月3日（木）午前10時～11時

2. 場所：香芝市役所2階 大会議室

3. 議事

※■：事務局より説明 / 主な意見：○委員、●事務局

(1) パブリックコメントの結果及び第3次男女共同参画プランの最終案について

(2) 第3次香芝市男女共同参画プランの策定に関する答申(案)について

■事務局

〈パブリックコメントの結果報告〉

令和3年12月24日から令和4年1月20日までの28日間パブリックコメントを実施したが、意見の提出はなかった。

〈第3次プランの最終案〉

パブリックコメント時に公表していたプランの素案から、誤字脱字や表現の統一などの修正を加えたものを「最終案」としている。気になる点などあればご意見賜りたい。

〈答申について〉

諮問「第3次香芝市男女共同参画プランの策定について」に対する答申については、会長と事前に相談し、これまでの委員会でのご意見・ご指摘等を総括して、当委員会から香芝市長への答申書(案)を作成いたしましたので、確認いただきたい。

○会長 事務局から説明があった2点について何か質問や意見等ないか。

答申を市長へ手渡す際に、言葉を添えて答申したいと思っているが、会長一人での提出になるため、委員皆さまから意見を添えて答申を提出したい。

皆さまの思いや希望、提言などを一言ずつ聞かせていただきたい。

○委員 全体に呼びかけていく時に、実際にできているところ、努力をしているところ、努力をしているがうまくいっていないところの温度差があると思っている。

努力をしているところにとっては、「これ以上は」となってしまう場合もある。なので、何か成果を一人ひとりが見えるような形にもなってほしいし、それがモデルとなるような事例がたくさん出てくることを期待する。

男女共同参画の中の個別の良い事例に焦点を当てていくような取組を行うことも大事だ。

○委員 よくまとめられている。余談になるかもしれないが、一人ひとりが「自分が誰か」というところから始まっているのかなと常々思っている。男性、女性、障がい者、と色々あると思うが、自分が誰なのかという疑問から始まり、自分と同じか違うか考え

る。そこに自分より上なのか下なのかという視点が加わってくるから、男性や女性が働きにくいとか活動しにくいとかという問題が起こってくるのが今の状況なのだと思う。

プランを通じて、男女共同参画以外の分野でも、自分が誰なのかをもっとフラットに考えるスタートにしてもらえたらと思う。

○委員 答申書でいうと1番の「10年後に目標を達成すればよいということではなく、令和4年度から取組を積極的に進めていくという意識をもって全庁で事業の推進にあたってください。」をしっかりと伝えていってほしい。

目標はとりあえずの目安であってゴールではないということを伝えていく必要があるし、プランの目指す目標をぶれないようにして、それに向かって少しずつやっていきたい。

先ほどの意見に関係しますが、人それぞれ違うということも、男女共同参画も同じように考えていってほしい。障がいの有無などの属性に関わらず、その人自身を見ていける人でいっばいの社会になってほしい。

○委員 答申書にある1番のとおり、10年後がゴールではなく、それまでのプロセスが大事であるということを第一に伝えていっていただきたい。

そのプロセスを香芝市民が協働して進めていくためには、情報の発信が非常に難しい。積極的に情報を見ている人に対しては、意識改革をしていただけるし周知にも努められるが、それ以外の人に対しては積極的に発信を行っても、その人が求めている情報には触れてもらいにくいので、周知の仕方については考えていく必要がある。

○委員 2025年問題、その他温暖化など様々な問題を抱えるこの社会で、性別によって役割を区別している余裕はない。

これまでの社会の仕組みを、現在の社会の変化に合わせて変えていかないと、暮らしやすい香芝市にしていけない。また、市の職員と、様々な関係団体や事業者、市民とが協働していかなければいけない。

プラン策定に当たっては、女性管理職の登用率について様々な議論があったが、男女その他属性に関わらず優秀な人材を活用し、議論を尽くして良い社会の仕組みを作っていただきたい。こういった現状を理解し、市の体制を変えていっていただきたい。

○委員 前回の会議で、目標値のことを色々話し合ったが、DVの目標値が0に変更されているのを見てスッキリした。

答申書(案)は格調高くわかりやすい文言で、3番目の「当委員会では、時間をかけて性の多様性について協議を重ねてきた。多様性が尊重され、すべての人にとって暮らしやすいまちをめざすために、多様な性に配慮した行政サービスの提供に努めてください」は進めていく必要がある部分なので良いと思った。

ただ、パブリックコメントが0件で終わったことが残念。関心がないのではなく、自分の生活や困りごとと男女共同参画が関わっているということをもっと感じてもらえるようなことができたらいと思う。

新型コロナウイルス感染症のこともあり、「孤独・孤立」が今の一番のキーワードだと思う。2月からの原油価格の高騰・食品の値上がりなど、女性たちや子どもたちの貧困は深刻化しており、困っている人たちが香芝市にもたくさんいるだろう。そういった人の声がなかなか聞き取れていない現状があるのだと思う。

女性のみならず、男性も孤立させないように、可視化していく仕組みや評価の仕方、取組が必要になってくる。これらも男女共同参画の課題だ。

SDGsの「誰一人取り残さない」とか、飢餓や教育、安全なトイレなどの課題は全て男女共同参画に繋がっている部分なので、私はこれを題目にせずに、誰かの声を聞き逃さないようにしていきたい。

○**会長** 答申の3番にある多様な性への配慮については、学校現場にそういう子たちがいたりするので、そういったところも添えていきたい。

「誰一人取り残さない」というSDGsの言葉は、人権や男女共同参画の大事なポイントであると改めて認識した。

求めている方にどう周知していくのかということはとても大事なことだ。パブリックコメントに意見の提出がなかったことに不安もあるので、関心を寄せていただけるような取組を期待する。また、若い方たちに広げていく施策の必要についても共有したい。

○**委員** パブリックコメント0件の原因について把握できているところがあればお伺いしたい。

●**事務局** 広報紙・市ホームページで告知をする他、市役所や図書館、福祉センターにもパブリックコメント意見箱を置き募集したが意見がなかった。市の様々な計画について、同条件下でパブリックコメントを行っているが、意見が出るものと出ないものがあり、皆さまの関心の度合いによるものもあるかと思う。興味関心のない方へのアプローチの方法については課題を感じている。

○**委員** 男女共同参画に限らず、パブリックコメント自体が難しいという意見をよく聞く。熱量が高い方は意見を入れるだろうが、熱量がそれほどでない方にとっては意見するのが難しい。そこまでの熱量はないけれど意見を言いたいという方のための、意見を翻訳するワンクッションが欲しい。

○**会長** 他にパブリックコメントに答えていただけるようなご提案はないか。

○**委員** プラン策定前に、策定を周知し意見を吸い上げるための市民への研修会のようなものが開かれると、関心を持っている方に意見を言ってもらえる機会になると思う。また、講演会等で、意見を提出できるという予告・お知らせを入れると、なじみがでて意見も言いやすいかもしれない。

●**事務局** 研修会や講演会の機会に、そういった案内ができるよう検討をしていきたい。

○**会長** みんなが参加することによってまちづくりが進むという、普段からの啓発が大事になってくるのかもしれない。そういう仕掛けや工夫を全庁挙げて作っていただきたい。

○委員 先ほどの意見のとおり、パブリックコメントはハードルが高いし、能動的にチェックしていないと気付けないこともあるので、情報が届きやすくするための取組が必要だ。

○委員 やっぱり知ってもらうということが大本だ。第3次計画を色んなところで啓発していく。男女共同参画がテーマの研修の機会は多々あるので、そういう機会を捉えて、今回策定するプランとその取組を周知・啓発していく体制を強化していくことが大切だ。

○委員 推進状況の評価はどのようにするのか。5年後の見なおしで何を行うのか。

●事務局 計画の進捗管理としては、定期的な市民意識調査を実施し、市民の意識の変容をとらえ、世の中の流れを踏まえた上で、5年後に施策の追加、数値の見直し等を行い、現時点の計画を一部改訂する予定。

○委員 成果目標の数値の見直し等を行うこともあるということか。

●事務局 達成状況を確認したうえで判断したい。委員会は毎年予定しているので、そこで進捗管理をしていきたい。

○会長 評価や進捗管理が一番大事な部分。進捗管理は事務局と委員会で行っていく。

(3) その他

■事務局 答申書の提出・今後の予定について説明

以上